

# 人形浄瑠璃 猿八座

2020年サントリー地域文化賞受賞



2021年  
公開稽古



## せっきょう 「説経 をぐり」

はか わ てるてくるま び  
五段目 —墓割れの場— —照手車曳きの場—

### < 猿八座 >

浄瑠璃 渡部 八太夫  
人形 西橋 八郎兵衛  
逸見 八里  
堀 八島  
山口 彦八  
長谷川 眞八  
石井 紫猿  
和泉 猿丸  
篠田 八助  
舞台監督 高橋 八重

### < 解説 >

川村 知行(上越教育大学名誉教授)



# 9月23日(木・祝)

13:00 開場 13:30 開演 14:30 終演予定

会 場： Donald・Keene・センター柏崎 3階多目的ホール  
定 員： 各回 50名 (要予約)  
参加費： 無料 (コロナ収束祈願イベントにより)  
※ただし入館料が必要です。  
問 合 せ： 電話・FAX 0257-28-5755

Donald・Keene・センター柏崎  
DONALD KEENE CENTER KASHIWAZAKI

## 「説経 をぐり」(「小栗判官」)解説

「小栗判官」は「山椒太夫」とともに「説経節」の代表作といえる演目です。説経節は仏教の経典を民衆にわかりやすく説いた中世に始まる語りに、民間伝承や説話が取り入れられ、三味線の節が付いて芸能化した語り物。江戸時代初めには浄瑠璃と同様、人形芝居とともに劇場で上演されました。

### <四段目までのあらすじ>

二条の大納言の嫡子、小栗は、大蛇の化身と契ったことが都中の噂になり常陸の国に流されます。そこで相模の国の守護代、横山殿に照手という美しい姫がいることを知り、強引に婿入りします。怒った横山殿は小栗に毒酒を盛って殺害。一方、照手姫も父の怒りを買って海に流されるが浜に流れ着き、次から次へと人買いに売られて、美濃の国、青墓(おうはか)の宿「万(よろづ)屋」という遊女屋に買い取られます。亡き小栗を想う照手姫は遊女になれという主人の命を拒み、代わりに十六人分の水仕事を一人でこなす奉公を続けていて…

### <五段目 一墓割れの場一>

毒殺された小栗は冥途で閻魔大王により無罪の裁きを受けます。小栗を埋葬した墓が割れ、変わり果てた姿となつてうごめく小栗を藤沢遊行寺のお上人が見つけ、餓鬼阿弥と名付けて「熊野本宮の湯に入れば本復する」と書かれた閻魔自筆の胸札に「この者を一曳き曳けば千僧供養、二曳き曳けば万僧供養」と書き添えて土車に乗せます。藤沢から東海道を次々と人々に曳かれた土車は、美濃、万屋の門前で曳き手が無く三日間放置され…

### <五段目 一照手車曳きの場一>

餓鬼阿弥を見た照手は、それが自分の夫であるとは知らず、夫の供養のために主人に五日間の暇を乞い、近江関寺まで土車を曳く…

### <その後>

熊野湯の峰の湯にたどり着いた餓鬼阿弥は、湯につかって元の小栗の姿に戻り、万屋を訪ね照手と再会、常陸の長者として夫婦共に天寿を全うします。

## 猿八座 (2020年 サントリー地域文化賞受賞)

佐渡の猿八に暮らす座長・西橋八郎兵衛氏が1995年に旗揚げ。猿八座の人形浄瑠璃は、佐渡に伝わる古浄瑠璃「文弥節」(国指定の重要無形民俗文化財)をもとに渡部八太夫が節付けし、人形も佐渡の文弥人形と同じく一人遣いで演じられます。

現在は、座員が集まりやすい新発田市真中に稽古場を置き活動中。何百年と上演が途絶えている数多くの説経、古浄瑠璃の中から、現代向きの作品を選び出し、復活上演に取り組んでいます。

### <座員募集中！>

柏崎近隣では、高柳地区にて人形・三味線・衣装づくり等を座長自ら指導し活動中です。

(問合せ：080-2012-9115 西橋)